

日本大学 桜樹会会報

第 8 号

昭和47年11月

日本大学 桜樹会

目 次

器械の王者鉄棒	浜田 靖一
太陽国体とこんごの国体	門脇 春男
オリンピックに思う	遠藤 幸雄
ミュンヘンの味	上野 剛
オリンピックに参加して	矢部 信恵 宮本 敏子
47年度(6月~10月)競技成績	
反省	前主将 五十嵐 健夫 前総務 外山 宣男
体操部新役員について	早田 卓次
抱負	新主将 住広 晃
第2回桜樹ゴルフコンペ	
桜樹会の女性同志へ	海谷美代子
審判部情報	審判部
桜樹スキースクール会員募集	
会費領収について	総 務
編集後記	

器械の王者鉄棒

浜田 靖一

何といっても器械の王者は鉄棒だと思う。鉄棒は人間が作った器械の中の最高傑作ではないだろうか。競技会などでも一番華麗であり人気があるのが鉄棒である。従って、競技会の一番最後の演技として行なわれるのもうなづかれる。それだけ鉄棒はショー的要素もっているわけでもある。日本の学校体操の中でも一番古くから親しまれていたのも鉄棒である。

志賀直哉の「速夫の妹」の中にも鉄棒が出てきて、速夫が鉄棒で「ふじさがり」というのをやるのが描かれている。また最近では、野坂昭如が、月下の鉄棒というのを書いているのがなかなか面白い。これによると、彼は鉄棒が得意で上手であつたらしい。野坂昭如が鉄棒と縁があるとは思わなかったが、愉快なとりあわせである。

詩人の村野四郎さんは、体操詩集を出して居られるし、ご自分でも鉄棒が好きでよくやられるらしい。三島由起夫さんは、リングをやってみたくて言っていたが、練習しないうちに死んでしまった。しかし、鉄棒の懸垂腕曲げは得意で、何回もやってみせたことがある。

さて、昔から「鐘がなるのか撞木がなるか」という文句があるが、器械運動も所詮人身と器械の融合運動にほかならない。人体の構造

は同じであるから、器械の構造の性格の中で、人体のもつ特徴が如何に発揮されるかということになる。そこで器械の構造をながめながら、鉄棒の優秀性を考えてみたいと思う。

体操競技に使う器械の中で、一番技の種類が多いのは鉄棒と床運動だと思う。これは当然、器械の構造の複雑さと、人体の動きの幅や種の数とは反比例するからである。それは、ジャングルジムのように、バーの数が多く組み合わされてくると、「けしり」や「車輪」が出来ないのをみてもわかる。昔から、平行棒の技の数は少ない。これは、鉄棒より一本多いバーの存在が、身体活動をさまたげるからである。女子の平行棒も段違い（昔は平行）になつたために、男子の鉄棒の性格をおびてきて、亜鉄棒的な技が多くなつたが、これとて男子の鉄棒の技の数に比べたら微々たるものである。所詮二本の棒には安定感はあるが、一本の棒の自由さはないのである。

床も平面という拘束をもつだけで、床面から上の空間の動きは自由である。しかし床面から下は使えないので、バーの上下が使える鉄棒からみれば動きは少ないことになる。

即ち、線と面との相違を、鉄棒と床運動の動きの範囲にみる事ができるのである。つり輪も、平行棒も、鞍馬のポメルも二つある。これは勿論、人間の手が二つあることから出

来た器械の構造である。つり輪は、鉄棒に非常によく似た運動であるが、人体の運動の支点が、輪のところと、綱の上のつけ根のところの二つに分かれていること、即ち二重ふりこの運動であるところが鉄棒と違うわけであり、二本であるところが平行棒と同じように運動の拘束性をもっていることはいなめない。また、スウィングやサークルは、地球の重力の利用やその挑発的動作で行なわれるので、引力と同じ方向にひかれた綱は、当然動きを制限していることになるわけである。

鉄棒、つり輪、平行棒が、主として地面に対して垂直の位置における円運動をしているのに対して、鞍馬は、水平円の運動をする。しかも、スウィングは平行棒と同じように、地床と垂直関係で行なわれるので、垂直関係のスウィングと水平円の運動のコンビが、鞍馬運動ということになる。そして懸垂ではなく腕支持で行なわれるために、肩から上の空間はあるが使えず、馬体に動きが制限されるわけである。しかも馬体は一つであるが立体でマス(かたまり)であるので、二つの線や綱と同じように動きの基盤でもあり、制限をする原因をなしている。

女子の競技の平均台は、床運動の正方形の床を左右から縮めて幅10cmにし、それに高さを加えた器械である。先程床運動は床面から下は使えないと書いたが、平均台は高さが

あるので、所謂床下が使えるわけで、上り方下り方や、またがるとか、腰をかけるとかいう運動が出来るし、その反面転落という床運動にはない局面もでてくるわけである。

さて、体操競技の器械を、体の使い方から分けてみると、鉄棒、平行棒、つり輪、鞍馬は、胸による運動であり、平均台、床運動、跳馬は、主として足と腕のささえによって行なう運動である。その中で、跳躍力と、巧緻性に焦点をしばった運動が跳馬運動であるとみることができる。女子の平均台の運動は、床運動の床を左右に圧縮したと同じ性格をもっていると述べたが、跳馬は、床運動の転回跳躍の運動をひとつめき出して、助走をつけ、馬の背へ移行した運動とみることができる。他の器械使用の運動との大きな違いは、動きが直線運動であり、大幅な身体移動とスピードのコントロール運動であるということである。従って静的な平均台の運動とは対象的であるが、平均台の静的なコントロールに対して、跳馬はスピードと跳躍力のコントロールという性格をもっているとみることができるのである。

しかし、それぞれ特徴はあるが、運動の妙味という点で鉄棒におよばないと思うがどうであろう。

太陽国体とこんごの国体

門脇 春男

戦後の復興を一日も早く、また、スポーツの交流を基として人心の安定を願って、昭和21年秋、京阪地区で第1回目が開催された「国民体育大会」も、今年は27回目を鹿児島で迎えた。この間、紆余曲折いろいろな事柄が折山あった。(第2回(昭22)金沢一、国体旗の制定、第3回(昭23)福岡一天皇杯、皇后杯の授与はじまる、第9回(昭29)北海道一民泊のはじまり、第12回(昭32)静岡一アトラクションとして民謡、踊り等のマステージ、第19回(昭39)新潟一ジブシー選手がめだつ、等々)

とにかく現在では、参加人員約17000名、競技種目も30数種目にのぼり、その運営は一市町村ではとても引き受けられない位まで規模が大きくなりすぎてしまった。また、高校生は8月初旬に全国高校総合体育大会が実施されているにもかかわらず、国体では9月の夏季大会、10月の秋季大会への参加、いくら都道府県対抗だからといっても、高校生にとって国体は、インターハイの二番煎じ。あるいは二重負担になるのではないかという意見も出始め、今後の国体のあり方として、日本体育協会国体委員会は、昭和50年から参加要項を修正すべく案を打ち出した。

A案 16,000~17,000名

競技種目現行のまま

B案 15,000名程度

競技種目現状を考え減らす

C案 13,000名程度

競技種目現状を考え減らす

また、参加者を年齢によって大きく分け、

成年の部 (18才以上)

少年の部 (18才未満)

とする。

このように、大改革が考えられている。従って、各競技団体もこの線に沿って参加人員の調節を考えねばならないとききている。

体操に関する案は

体操競技

成年男子 47チーム(この数は

少年にまわる可能性大)

" 女子 16チーム

少年男子 16 "

女子 16 "

団体体操

少年男子 16

" 女子 16

計 127チーム

(現在124チーム)

現在の参加選手数は764名であるので、将来案は、この人数の枠をこえない範囲内でとなっているので、1チーム当りの選手が5名から4名になる可能性もある。いずれにして

も、昭和50年、第30回大会より変ること
は確かである。

大陽国体は、桜島を背景として、10月22
～26日まで、鹿児島市を中心に行なわれた。
いつものごとく、本学関係者の数多くの諸君
が、全国各地から参加し、日頃の技術の成果
を発表していた。

同じ釜の飯を喰った仲間が、郷土の代表と
して、晴がましくもまた誇らしく、それぞれ
のユニフォームを身にまとい、南国の地へ集
つたのだ。北国のひとは、車中6食も弁当を
喰ったという。これもまた嬉しいことだ。

国体というと、われわれの仲間の藤谷弘一
君(昭和36年度卒)は、なんといっても古
い。高校在学中からの出場であるから、約15
年間もの長いつき合いである。今年は、彼は
高校の監督として来ていた。風物詩的な、大
変なつかしい人物である。

本学関係参加者および成績

一般男子

堀田敏明	(長崎 昭和43年度卒)	105.30
住広 晃	(広島 3年生)	65.95
田中章二	(福岡 4年生)	108.85
梶山広司	(神奈川 1年生)	111.35
中谷秀明	(東京 昭和46年度卒)	110.75
椎名 昇	(千葉 ")	108.95

一般女子

矢部信恵	(福井 3年生)	71.75
林田房美	(熊本 2年生)	棄権
河内余志子	(香川 4年生)	67.20
今成洋子	(山形 3年生)	67.45
速田幸子	(" ")	66.85
並木松子	(千葉 ")	66.00
稲谷清子	(和歌山 昭和45年卒)	72.65

役員

橋口泰武	(千葉 一般男子監督)	昭和41年 度卒
三田 久	(秋田 高校男子 ")	昭和36年 度卒
藤谷弘一	(北海道 ")	" "
門脇春男	(本部)	

オリンピックに思う

遠藤 幸雄 (体操部監督
ミューンオリンピック男子チーム
リーダー)

第20回ミューンオリンピック大会は、
いろいろなバブニングと、これからの大会運
営に多くの問題を残して、ともかく終了した。

敗戦からみごとに復興したのは、日本と西
独とよくいわれるが、独得な競技施設や、マ
ンションのごとき選手村は、その実力のほど

を誇示している。

村は以前飛行場であったようで、村内にある池は、軍隊の新兵の水泳訓練の場で、泳げる者も、泳げない者も投げ込まれたと聞く。

アルプス連峰の北側に位置するバイエルン州の首都ミュンヘンは、135万の住民をもつドイツ第3の大都市である。

そこに住む人びとは、ドイツ人のなかでも特に陽気な性格を有し、市内のビアホールでのビールと歌を愛しながらの無礼講なまでのエネルギー発散は、ただ圧倒されるばかりである。

さらに、誇り高いことでも定評があるらしく、通訳の話によると、「バイエルン州に、オーストリアより入る際、国境にはドイツ国を示す表札を見ることができない。そこには自由都市バイエルンと書かれている。」という。

第二次大戦のあと、州の人々は、真剣にドイツ国よりの独立を考えたとも紹介されたがこれなどは、誇り高きバイエルン州の裏付けといえないだろうか。

今回、大会の中心がミュンヘン市に選ばれたのは、何と云ってもスポーツ愛好精神である。約360もある体育、スポーツのクラブがそれを物語っており、私設のスポーツ施設にしても、市民のために提供されている。したがって、ミュンヘンは、オリンピックにより、一段とスポーツの中心地としても発展するだろう。

さて、競技の方はというと、久しぶりの水

泳での金メダル、男女バレーチームの熱戦、そして男子体操チームの奮闘と、いくつかのハイライトがあり、日本選手団としても、前回のメキシコ大会を上回る成績に、一応の目的を達成したように思う。

出発前、マスコミ関係者に、「いくつ金とれますか。」の質問に、「最低6個は」と答えたものである。これは、リーダーとして、他国の実力を計算した上で出されたものであったが、実際には5個に終わった。しかし、いまだ攻撃材料にされないところをみると、メダルの内容を評価してもらえたのかもしれない。

今回の男子チームは、チーム編成から故障者の続出で、合宿計画を予定通り消化できたのは少ない。それだけに当初の目標が崩れそうな不安をもったことも事実である。

勝利は、一に選手自身の日本チームの一員としての誇りと自覚にほかならず、心より敬意を表したい気持である。

「月面宙返り」のニックネームのある塚原選手の鉄棒における大わざは、彼が試みて約一年後の完成であり、涙した大きなからだに印象に残る。彼はまた、診ウルトラCを、個人総合の平行棒で演じている。それは、演技台から落下したことである。点数は925、恐らく落下での減点は、演技台が狭いということにおきかえられたように思う。

男子とは対象的に、女子チームは精一杯やったにもかかわらず不成績に終了した。他国チームの実力の把握が不十分だったこともあ

ろうが、何んといつても実力の差はどうにもならない。矢部、宮本両君とも、それぞれの立場で努力したことも報告し、また、今回の遠征が、これからの両君に大いなるプラスとなることを、監督としても期待したい。加えて、男子ナショナルチームへの日大の進出で

ある。着々と芽を出しつつある後輩もあるが、いま一度、じっくりと選手づくりの反省期にきているように思う。

さいごになりましたが、出発に際しましてみなさまからのご厚意に対し厚くお礼申し上げます。

ミュンヘンの味

上野 剛 (第4回卒
ミュンヘンオリンピック女子コーチ)

ミュンヘンの味を思い出せば、種々さまざまである。冷とした味、甘い味、油っこい味、スツキリした味……。その中で一番印象に残っている味は、何んといつても「さわやかな味」あのチョップリほろ苦いビールの味である。

それは、勝利感と敗北感を同時に味わい、ほっとしたあの夜のでき事でした。

選手達は各々ミュンヘンの味を満喫するために選手村を出て行ってしまった。残った役員、通訳は、何んとなく手持ちぶさたであったが、サクモト(竹本)先生の「一杯やっか!」のひと声で、我々もピヤホールに向かうことになった。日本の地下鉄よりも静かで、おまけに無料の電車でゆられて約10分、マリンプラツに着いた。エレベーターで地下に出て、目指す「HB」のイニシャルで有名な「ピヤホールバンフォーフ」へ行く。店に入つたたん、度肝をぬかれた。そこには何千人入るか分からないホールに、無数の大きなぶ厚い

テーブルと、教会を思わせる長い椅子があつた。ワンテーブルには、7~8人づつ座っており、ビールを飲み、手拍子を取りながら、楽団に合わせての大合唱。日本では味つたことのないすばらしく楽しいムードである。本当にすばらしい。我々もすばやく席をみつけ1.25マルクのジョッキを両手に、いや片手にしっかりもって、「ブロース(乾杯)」。同席したドイツ人一家が、「日本の体操はすばらしい」といってビールの差し入れをしてくれた。最初の一杯は、その場でペイしたが、後はドイツ人のおごりでジャンジャン飲んだ。「サー帰ろうか」と言った時には、テーブルの上に4つのジョッキがころがっていた。

私の心の中には、何杯飲んでも喉を流れるあのさわやかな味と、健康的なムードの中で、心憎いほど楽しみ、ゆかいにジョッキをぶつけ合った姿——さながら命の洗濯をしているような姿——は、ミュンヘンの思い出と共に、クールな感じが今だにはっきり残っている。

る。

オリンピックに参加して

矢部 信恵 (文理3年)

私は幸運にもオリンピック選手に選ばれましたが、補欠選手だったので試合には出られませんでしたが。しかし大変よい勉強になったと思っております。他国の上位入賞した選手と、日本選手を、客観的に比較してみますと、他国の選手は、選手としてのピークが10代といわれる程で、幼ない頃から基礎をた積み

込まれており技の上でずい分差があると思われました。それと自分をアピールするのがとても上手だと感じました。

日本の男子はやはりすばらしいと思えました。すぐそばによいお手本があるので、他国選手の良い所の研究もどんどんやって、もっと頑張りたいと思っております。

宮本 敏子 (文理1年)

西ドイツミュンヘン。これからはじまるオリンピックという大きな試合を目前にして、とても大きな不安につつまれ、ほんとに何をしてもよいのかわからない状態でした。

やはりオリンピックになると、会場の雰囲気も日本の試合とは違い、観衆は点数が低い

いって口笛をふき、すばらしい演技には惜しみない拍手を送るなど、精一杯の反応を示しておりました。そんな中で試合をすることができ、本当によい経験になったと思います。今後は、この経験を生かして、しっかりとがんばりたいと思います。

47年度(6月～10月)競技成績

第6回東日本インカレ

6.16～18 上尾市体育館

男子団体総合	第2位	
個人総合	第1位	五十嵐 健夫
	2位	梶山 広司
	5位	田中 章二
種目別	ゆか	1位 五十嵐 健夫
	鞍馬	2位 五十嵐 健夫
	"	梶山 広司
	吊輪	1位 梶山 広司
	跳馬	2位 五十嵐 健夫
	平行棒	1位 五十嵐 健夫
	鉄棒	1位 五十嵐 健夫

女子団体総合	第2位	
個人総合	第3位	宮本 敏子
	5位	矢部 信恵
	6位	田村 君子

第26回全日本インカレ

7.20～23 福井市体育館

男子団体総合	第2位	
個人総合	第1位	五十嵐 健夫
	3位	梶山 広司
	8位	田中 章二

種目別	ゆか	1位	五十嵐
	鞍馬	3位	"
	吊輪	1位	"
	"		梶山

跳馬 第2位 五十嵐

平行棒 2位 "

女子団体総合 第2位

個人総合 第4位 矢部 信恵

8位 宮本 敏子

第27回国体東京都予選

8.10～11

男子団体総合 第4位 日大桜樹ク

ラブ 30945

第4位 中谷 秀明

10880

8位 徳永 富夫

10710

種目別

鉄棒 1位 中谷

ゆか 2位 "

吊輪 2位 "

跳馬 2位 徳永

関東ブロック予選

個人総合 第7位 中谷 秀明

110.60

(中谷は東京都代表)

ジュニア選手権大会

8.19～20 中野区体育館

男子個人総合 第1位 梶山 広司

5位 鈴木 一弘

女子個人総合 第12位 田村 君子

東西対抗

10.15

駒沢体育館

男子個人総合

第1位 梶山 広司

女子個人総合

第4位 矢部 信恵

5位 錦井 利臣

6位 河内余志子

桜樹スキースクール会員募集

第3回桜樹スキースクールを下記の要項で
開催します。前回のスキースクールでは、29
名の参加を得、今回、前回以上の参加が予
想されますので、宿舍予約の都合上30名で
〆切らせて頂きます。早目に申し込んで下さ
い。

スキースクール要項

日程 昭和48年1月3日～5日

場所 妙高高原 赤倉温泉

宿 ふじや旅館 TEL 0255(87)2067

1泊 2,500円

申込み方法

1. 電話かハガキで申し込んで下さい。

朝倉徳雄 0474(66)1111 理工学部

鶴見與人 川崎市生田2061-4

2. 旅館予約の都合上、申し込んで当日出

席できなくなつた場合、1,000円の違
約金を徴集いたします。

反 省

前男子主将 五十嵐健夫

日々冷気加わる折柄、諸先輩方にはいかがお過してしょうか。

我々学生は、東日本、全日本インカレを終え、OBの方々も出場される全日本選手権目指して、毎日練習に励んでおります。

夏に行なわれましたインカレでは、またしても日体大に敗れてしまい、昨年同様くやし涙のみ、初優勝の難しさを心に強く感じました。「日大優勝」「必勝日大」と、OBの方々または、先生方、あるいは学生間で言われました。その都度、選手達は心に強くその言葉をかみしめてきました。しかし、「日大優勝」「必らず勝てる」と選手達が本当に心の奥で思っただろうか、いや、どれだけ自信をもってその言葉を言えたであろうか、今になって反省せざるを得ません。

技プラス精神力プラス信念が、日大優勝のポイントになり、初優勝の原動力になるのではないかと思います。すでに来年のインカレは始っています。三年以下の人達が一日も早くその気持をつかみ、初優勝を目指してがんばってほしいと思います。

我々四年生は、来春の卒業を控え、期待と不安の気持で毎日を通しております。これまでもOBの方々には多大なご迷惑をおかけしてきた我々ですが、卒業後は会員としてよ

ろしくお願い申し上げます。

前総務 外山 宣男

一年をふり返って思うことは、よく自分に総務の仕事がつとまったということです。ミスばかりで、諸先生方には迷惑のかけどころでしたが、自分なりに頑張ったつもりです。

しかし、総務になったおかげで色々な事を知り、自分としては大きなプラスになったと思います。また、試合では選手達が力の限り演技し、「もう勝てる」というところまでレベルアップしてくれました。あとは精神力と負けん気が出てくれば勝てると思います。自分としては何もできませんが、今後も選手にできるだけ協力し、精神力の養成に当たりたいと思います。

最後になりましたが、諸先生、諸先輩に、いろいろご指導いただきましたことを深くお礼申し上げます。

体操部新役員について

指導部 早田 卓次

去る10月13日、文理食堂において、部長以下全部員、それに桜樹会から稲橋会長も出席されて部員総会が開かれ、下記の新役員が決定されましたのでご報告いたします。

男子主将 住広 晃 (文理3年)

総務 土屋 史郎 (")

女子主将 矢部 信恵 (")

総務 高田ゆり子 (文理3年)
学連委員 中島 清 (")
" 山田 幸子 (" 2年)

抱 負

新男子主将 住広 晃

最大の目標はやはり東日本、全日本インカレ優勝ということです。そのためには、選手

が頑張ることは勿論ですが、第一に試技会に多くの部員が出場することが大切です。また選手に選ばれた部員、そして選ばれなかった部員も、それぞれの立場で励まし合い、優勝を目指して努力することが必要だと思います。

また、各個人の技が上達するのも、その技のかけひきも必要だと思いますが、自分の力に応じて、しっかり技を修得してほしいと考えます。

第2回桜樹会ゴルフコンペ

残暑のきびしい9月1日、15名が参加して、第2回ゴルフコンペが開催された。会場の戸田カントリークラブは、河川コースとしてはフェアウエーもよく整備され、特にグリーンコンディションはすばらしかった。

天候に恵まれたこともあって、スコアーは全般的に上々であった。

優勝は、ゴルフを始めてまだ日の浅い朝倉

がネット101の7アンダーで獲得、準優勝はシングルプレーヤーの山中が、グロス113、ネット102.5の5.5アンダーで、ベストグロスも合わせて獲得した。

大阪から参加の山田は、健斗むなしく9位にとどまったが、そのプロ並みのショットはすばらしいものがあった。

以下、成績は次の通りである。

※印は会員外参加

NAME	OUT	IN	OUT	TOTAL	HDCP	NET	
稲橋	46	52	52	150	30	120	11
吉川	48	46	50	144	30	114	10
高田	50	50	49	149	42	107	5
早田	54	60	66	180	42	138	15
菊地	48	52	45	145	42	103	3
山中	35	36	42	113	10.5	102.5	2
鶴見	46	51	60	157	45	112	8
朝倉	53	51	51	155	54	101	1
今村	54	56	54	164	54	110	6
津村	44	52	41	137	27	110	7
山田	41	44	43	128	15	113	9
原	62	71	58	191	54	137	14
中谷	68	56	55	179	54	125	13
※阿部	45	50	48	143	37.5	105.5	4
※堀内	43	52	49	144	22.5	121.5	12

優勝	朝倉 徳雄	(43年卒)
準優勝	山中 勝男	(39年卒)
第2位	菊地 君男	(38年卒)
第3位	阿部 信博	(会員外参加)
セブン賞	津村 二郎	(44年卒)
ブービー賞	原 弘吉	(45年卒)
ドラゴン	山田 隆士	(")
ニアピン	山田 隆士	(")
"	稲橋 恒行	(35年卒)
"	菊地 君男	
"	山中 勝男	

桜樹会の女性同志へ

海谷美代子：(41年卒)

桜樹会とは男の会ではないのです。毎年幾人かの女性も入会しているのです。

それなのにどうですか。「ハゼ釣り大会」「忘年会」「スキースクール」等の恒例の催しの中で、女性の名前が出てくるのは、スキースクールだけではないですか。おまけに回を重ねること、「ハゼ釣り大会」は5回、「忘年会」は8回というではないですか。これには「やせの大食い」と「のんべん」を自他共に認めているという私にとっては、頭にくる限りです。

先輩、後輩と見渡してみても、私より風袋、重量の劣っている女性はいないはず、その一

番ちっちゃこいのが意気まいてるのに黙っているではないと思いますがねえ。

それに、第6号の記事によると、長野でポルノを勉強してきたというではないですか。男だけが流行の波に乗るなんて、許されてよいのでしょうか。

今後は、何んでも彼でも「会」と名のつくものには、そろそろと顔を出そうではないですか。そうしないと流行遅れになってしまうのではないだろうか。

最後にひとつだけ、この会を牛耳っている方々にお問い合わせ。ハゼ釣り大会には、トイレ付きの舟をチャーターしてもらいたいのだが……無理なお願いかなあ。

審判部情報

審判部

昭和47年度1種審判員認定試験が、12月16・17日(土・日)に予定されておりますので、下記の条件に該当する方はこぞって受験して下さい。

現在、日大関係の1種審判員の絶対数が不足しており、審判要請があっても、勤務先の関係等で出られない場合に代わる人がなく、せつかくの審判席も他校関係者に譲らなければならないのが現状です。大学体操界の一流校として、自他共に認める日大体操部としては、大変なさけないことといわなければなりません。ひとりでも多くの方が1種の資格を

取得されることを切にお願い申し上げます。

記

○受験資格

1. 男子は満25才、女子は満23才となる者。
2. 2種目取得後、2ヶ年以上経過した者で、2年毎の書替手続を怠っていない者。

○昨年の試験日程

- 第1日 採点規則についての講義
第2日 口頭試験、採点試験

会費領収について

		総 務	
47年5月11日以降、10月20日現在までの納入状況です。ご不審の方は菊地までご連絡下さい。	現金にて	6, 9	原尾 信行 1,000
		"	池田 成子 1,000
		6, 10	安藤 広子 1,000
		"	葛井 克政 1,000
		"	伊谷 正一 1,000
		"	武田 和子 1,000
		"	船木 政明 1,000
		"	浅田 泰男 1,000
		6, 13	佐藤 勲 1,000
		"	河原 正昭 1,000
		"	楢谷 宗敬 1,000
		"	金子 正史 1,000
		"	前田千賀志 1,000
		6, 12	石毛 誠 1,000
		"	鴨下 哲夫 1,000
		6, 14	宇野 正信 1,000
		"	島崎 康行 1,000
		"	近藤 明 1,000
		"	宮野 史郎 1,000
		"	小柴 守夫 1,000
		"	小宮由美子 1,000
		"	菅野 秀俊 1,000
		"	二岡真美子 3,000
		"	宇津 豊 1,000
		6, 15	高波 司雄 1,000
		"	酒井 博行 1,000
	口座にて		
	6, 7	大塚 文夫 1,000	
	"	平野 文世 1,000	
	6, 9	上野 剛 1,000	
	"	田野 哲 1,000	

6, 15	近藤 盛一	1, 000	6, 27	水口 始女	1, 000
"	阿部 稔	1, 000	"	松田 明	1, 000
"	門脇 隆	1, 000	"	舟山 忠広	1, 000
"	森山 文敏	1, 000	6, 29	藤田 純一	1, 000
6, 16	稲谷 清子	1, 000	"	印宮 享	1, 000
6, 17	神崎 悦子	1, 000	"	斎藤 敬一	1, 000
"	山村 英子	1, 000	"	渡辺 富代	1, 000
"	堀田 敏明	1, 000	7, 1	過足 重六	1, 000
"	川口 潔	1, 000	"	真島 孝礼	1, 000
"	宮沢多恵子	1, 000	"	藤谷 弘一	1, 000
6, 19	岩沢 稔	1, 000	"	石井 悦夫	1, 000
"	井上 博	1, 000	"	松岡 範孝	1, 000
"	後藤むつ子	1, 000	7, 4	仲西 盛光	1, 000
"	赤上もと子	1, 000	"	川口 享	1, 000
"	保坂 弘一	1, 000	7, 7	在原 祥子	1, 000
"	山口 次男	1, 000	"	村松 一	1, 000
6, 20	宮川 聖子	1, 000	7, 8	斎藤 章子	1, 000
6, 21	浦辺 由子	1, 000	7, 10	庄司 忠男	1, 000
"	大和 孝三	1, 000	7, 13	佐々木 巖	1, 000
6, 22	石丸 洋	1, 000	7, 17	中島 元	2, 000
"	徳永 先子	1, 000	7, 20	工藤 道弘	1, 000
6, 23	伊藤 勇	1, 000	7, 26	三田 久	1, 000
"	森 重樹	1, 000	7, 28	宮川 早苗	1, 000
"	高橋 房雄	1, 000	7, 31	安田 和明	1, 000
"	堀田 信二	1, 000	8, 4	塩田 和秀	1, 000
"	川口 幸彦	1, 000	"	諸岡 嘉春	1, 000
6, 24	平野 昌宏	1, 000	8, 7	影山 真一	1, 000
6, 26	岡本 公子	1, 000	8, 12	朝倉 康雄	1, 000
"	山田 隆士	2, 000	8, 14	湊 満雄	1, 000
"	宇佐見典久	1, 000	8, 19	高橋久美子	1, 000
6, 27	椎名 昇	1, 000	8, 23	諸名喜美子	1, 000

編 集 後 記

今回は会報発刊の作業よりも、同意書を整理して会員名簿を発行することに重点を置いた。同意書は、6月に発送し、遅くとも7月中には整理がつくはずであった。にもかかわらず11月中旬になってしまったのは、同封のパンフのような事情によるものである。名簿発行が遅れたことによって、会報の発刊もびのびとなった次第である。

ところで、この仕事をしていていつも思うことは、寄稿が多過ぎて悲鳴をあげるような状態にはやくなってほしいということである。原稿を求めて奔走しなければならない現状は、なんともさびしいことである。

ある折に、東海大学の三栗監督と機関誌に関してお話しする機会を得て、後日第1号から第7号までの桜樹会報をお送りしたところ、早速、東海大学体操部で年1回発行している部誌「躍進」の、創刊号から4号(46年度版)までを贈って戴いた。

それに目を通して感じたことは、若々しい東海大体操部のエネルギーが、むんむんしているということである。そこには、かつて日大が2部で優勝し、翌年1部入りして3位

に食い込むというはなれ業を演じた創部時代のあのエネルギーが充満しているのである。

日大体操部でも、昭和37年11月、部誌「桜樹」が創刊されたが、39年1月に第2号を発行して以来途断えてしまった。

東海大の部誌を読みながら思ったことは、やはりこうした機関誌的なものは必要だということである。特に現在の部のように大世帯になれげなるほど、情報交換の場としても、年代を印す記録紙としても必要ではないだろうか。

桜樹会報は、OB、OG会の機関誌として発刊されているが、だからといって現役の部員諸君と無関係というわけではない。現に、各競技会の成績や、部の行事、活動状況等なるべく掲載するよう努めている。しかし、勿論充分な状態ではない。

今後、会報としての内容的充実を計るためにも、また前述のような意味での部誌的な存在価値を生かすためにも、現役諸君からの寄稿も、積極際に呼びかけたいと思うのだが。

11.14 菊地記

